



発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
 住所 高崎市八幡町 800-24
 TEL&FAX 027-343-1393
 e-mail crgoto@af.wakwak.com
<http://www.crgoto.com/>
<http://www.eaglesgoto.com/>(スマートフォン用)

街頭演説
3000
 日

群馬県議会 リベラル群馬

後藤かつみ

2018年6月定例会報告

農福連携始動! 担い手不足に悩む農業と、就労による活躍の機会が必要な障害者を結びつけ、双方に「WIN・WIN」の関係を作る農福連携の取り組みが本県でも始動しています。

CONTENTS

- I 後藤の原点「環境農林常任委員会」に所属
- II 持続的な農林業の構築に向けて
- III 「担い手不足」解決に新たな発想～農福連携とIT技術～

後藤の原点「環境農林常任委員会」に所属

環境問題が政治の原点

後藤が政治を志すきっかけとなった、田中正造翁は、一世紀以上に前に、鉱毒事件という現代の公害問題を巡り国と闘い続けた人物です。後藤も県庁職員時代から、常に環境部に配属希望を出し、主に廃棄物部門に所属していました。

後藤が環境問題に強い問題意識を持つ理由は、社会の「持続可能性」にかかわる問題だからです。

後藤が群馬県、そして日本の将来を考えたとき、最大の課題は「持続可能性」です。

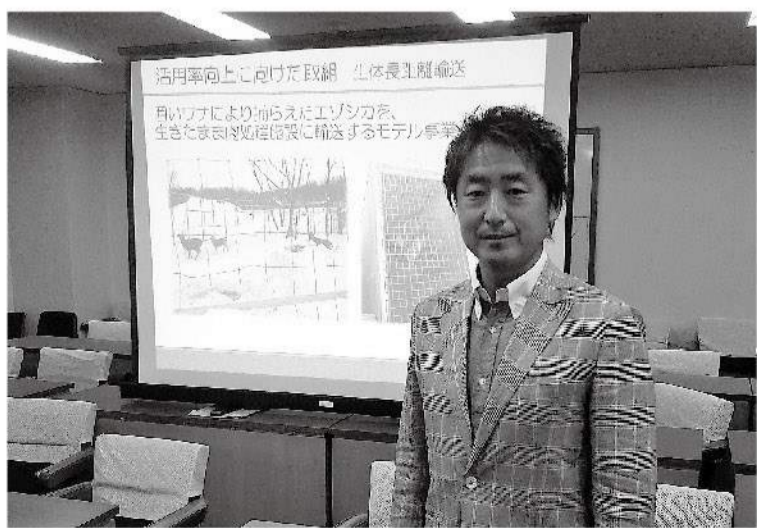
今回の西日本豪雨災害をはじめとする世界的な異常気象について、世界気象機関(WMO)も「温暖化ガスが原因」と分析しています。このことが問いかけているのは、人類が「工業化」による豊かさを享受してきた代償として、地球環境に大きな負荷をかけてきたことに対する報復が今、世界的に襲いかかっているということです。

「持続可能社会」のキーワードは「環境」と「農・林」

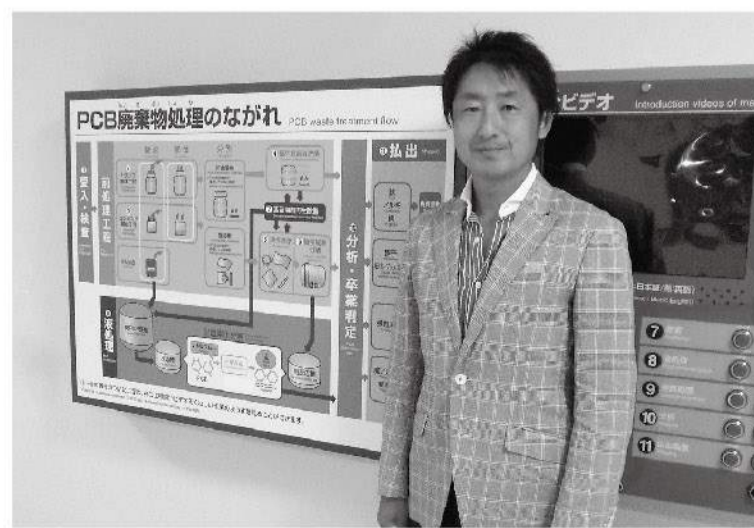
後藤は、政治がこつこつと「豊かさがもたらす負の側面」を直視し、「次の世代のために今できる努力」をすることにより、暮らしの源泉である自然環境を持続可能にしていく使命があると考えます。

同時に、自然環境を守り、生命の源泉である「食」を守る産業が農業です。後藤は、学生時代、「農」から新しい経済学の構築を目指した故・大塚勝夫教授に師事してきました。

後藤が、山村地域の振興策に力を入れている理由は、農村と都市、農業と工業の「共生」をはかることが、社会や経済の「持続可能性」を高めると考えるからです。これも、大塚教授の思想が原点です。



エゾシカによる森林や農作物の食害に対し、適正な頭数調整や捕獲後の利活用を進め、「共生」をはかる北海道の取り組みを視察。



経済成長の「負の残渣」と言えるPCB(※)の処理施設であるJESCO処理事業所を視察(平成13年の「PCB特措法」制定時に後藤も県の担当者だった)。群馬県のPCBもここで処理されている。

PCB(ポリ塩化ビフェニル)

高い利便性により電機機器やノンカーボン紙などまで、幅広く使用されたものの、「カネミ油事件」などの健康被害を及ぼす毒性が認められ、昭和47年に使用が禁止された。

その後、処理が進まないことから、平成13年に「PCB特措法」制定以降、国主導で処理が進められている。